



TITLE:

京大広報 No. 636

AUTHOR(S):

京都大学広報センター

CITATION:

京都大学広報センター. 京大広報 No. 636. 京大広報 2008, 636: 2669-2694

ISSUE DATE:

2008-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/196451>

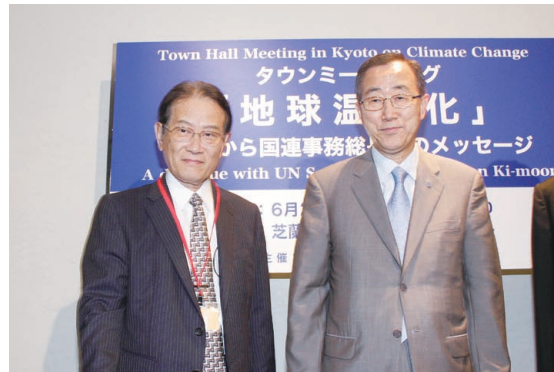
RIGHT:



京大広報

No. 636

2008.7



「地球温暖化」に関する国連事務総長とのタウンミーティング
— 関連記事 本文2672ページ —

目次

大学広報の充実に向けて
独立行政法人 国立高等専門学校機構理事
(前総務・人事・広報担当理事・副学長)
木谷雅人……2670

〈大学の動き〉

「地球温暖化」に関する国連事務総長とのタウン
ミーティングを開催……2672
ケビン・ラッド オーストラリア首相の講演会
を開催……2672
東アジア研究型大学協会(AEARU)第22回理事会
の開催……2673
国際フォーラム「多極的世界観の構築と外国語教育
— 多様な言語文化への挑戦」を開催 ……2673
インドネシア大学との学術交流……2674
第2回京都大学オープンコースウェア総長懇談会
を開催……2674
国際交流多目的ホール竣工記念披露式典を举行
……2675
永年勤続者表彰式を举行……2675
人権に関する講演会の開催……2676
平成20年度グローバル COE プログラムの採択
結果……2676

〈部局の動き〉

大学院情報学研究科が米国カリフォルニア大学
バークレー校情報スクールと連携……2676
寄附講座の設置……2677

〈日誌〉

〈資料〉

役員の報酬等および職員の給与の水準の公表に
ついて……2678

〈寸言〉

一歩外へ、そして一歩前へ 石田 孝……2685

〈随想〉

「教育」の原イメージ 名誉教授 木村 崇……2686

〈洛書〉

苦くておいしい 矢崎一史……2687

〈栄誉〉

柏原正樹数理解析研究所教授が第49回藤原賞を
受賞 ……2688

〈話題〉

創立記念行事音楽会を開催……2688
教育学研究科附属臨床教育実践研究センター
公開講座「象徴的生活—いのちの尊厳性—」を
開催……2689
国際交流会館宇治分館・おうばく分館「入居者
懇親会」の開催 ……2689

〈訃報〉

……2690

〈公開講座〉

情報学研究科公開講座「こんなに楽しい数理の
世界」 ……2691
霊長類研究所東京公開講座
「霊長類学の最前線」……2692

〈お知らせ〉

連続公開シンポジウム
「倫理への問いと大学の使命」(第3回)
～「研究の自由」における倫理～……2692

〈遠隔地施設の紹介〉

防災研究所附属流域災害研究センター
潮岬風力実験所……2693

京都大学広報センター

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>

大学広報の充実に向けて

独立行政法人 国立高等専門学校機構 理事
(前総務・人事・広報担当理事・副学長) 木谷 雅人

はじめに

昨年3月の本誌において「大学事務組織の活性化を目指して」と題する一文を書かせていただき、事務改革及び人事制度改革の取組と方向性を紹介させていただきました。その際にも、広報担当としては「大学からの積極的広報活動による大学に対する理解と支援のネットワークづくり」が大切であり、広報活動を社会連携や同窓会も含めて幅広く捉え、各方面に窓を開き働きかけながら戦略的に展開していきたいという基本的な考え方を述べさせていただきましたが、紙幅の関係上、詳しく触れることはできませんでした。今回は、ホームページのリニューアルを中心に最近の取り組みを紹介したいと思います。

1 大学広報の重要性

京都大学は、学生からの納付金、病院における診療費、国民の税金、企業や個人からの寄付金など様々な人々のご支援によって成り立っています。大学には、これらの方々に対して、京都大学がその使命である教育・研究・医療・社会貢献の面において何を目指し、どのような活動をしているかを分かりやすく透明性を持って説明する責任があります。その上で、各方面の更なるご理解とご支援をいただき、その活動を充実・発展させて、地域、国民さらには地球社会への貢献を一層推進していくことが求められています。

こうした観点から、今日、大学からの積極的な情報発信は極めて重要になっており、狭義の広報活動のみならず、オープンキャンパス等の学生募集活動、公開講座等の社会連携活動、同窓会活動なども含めて、広報を幅広く捉え展開していくことが必要になっていると思います。

それでは、以下に、最近の取組をいくつか紹介したいと思います。

2 ホームページのリニューアル

まずはホームページのリニューアルです。インターネットの普及により、多くの人が新しいニュースや情報をまずインターネットで検索するようになり、ホームページは極めて重要な広報媒体となっています。本学のホームページは、これまでも斬新な



デザインによって皆さんに親しまれ、とりわけ豊富な情報提供と迅速な更新に努めてきました。しかし、提供すべき情報量がますます多くなり、日々の情報、トピックごとの情報、基本的な情報などを整理して、

必要に応じ引き出しやすくすること、情報の更新もその情報に近いところで適時迅速に行うことができる体制を構築することが大きな課題となってきました。今回のリニューアルは、こうした背景から実施したものです。

リニューアルのポイントの第一は、カバーページの次に総合・教育・研究という三つのトップページを設けたことです。これは訪問者の興味や関心に対応した入り口を用意するとともに、それぞれのページにおいて、より豊富な情報を提供することができるようにしたものです。

第二は、各ページに多くのバナーを貼ることができるようにしたこと。これは、常設のバナーとともに、その時々トピックに関するバナーを随時設けることにより、訪問者が、バナーを通じて関心事項に簡単に入ることができるようにすることを狙ったものです。

第三に、各ページの情報量を増やす一方でデザインはシンプルなものとしましたが、画面上部に6枚の写真を掲載できるようにしました。これを随時更新することにより、京都大学の生き生きとした現在の姿を常に提供しようとするものです。

第四は、従来学内の教職員向けの掲示板をホームページの中に設けておりましたが、一般の訪問者の方にとっては煩雑であったこともあり、昨年12月から職員のみならず教員も業務用グループウェアのIDを取得し利用できるようになったことを受けて、学内掲示板をグループウェアの方に移行しました。

第五は、ホームページへのデータ入力について、プローン(Plone)というコンテンツマネジメントシステムを導入することにより、特定の管理者だけでなく担当者が直接行うことができるようにしまし

た。情報更新をより迅速・的確に行うことができるようにするとともに、事務の効率化を図ることを狙いとするものです。もちろん大学の公式のホームページですから、しかるべき責任者がチェックする仕組みも設けています。この点については、担当者に対する研修等も必要であり、今後、順次各部局等で入力できるようにしていく予定です。

以上が、今回のホームページのリニューアルの概要です。当初、4月1日に新サイトをオープンしましたが、新しい技術の導入に伴い動作に問題が発生し、一旦元のホームページに戻し、十分な検証・対策を講じた上で、4月21日に改めて新サイトに移行しました。この間、ご迷惑・ご不自由をおかけしたことをお詫び申し上げます。もちろんホームページについては、なお様々なご意見があらうと思います。何といたってもユーザーにとって使いやすいものとしていくことが基本であり、今後ともできる限りの改善を図っていきたいと考えておりますので、どうぞ忌憚のないご意見をお寄せください。

なお、今回のホームページのリニューアルは、秘書・広報室を中心に学術情報メディアセンター及び情報環境部の協力の下に行われたものであり、とりわけ学術情報メディアセンターの美濃センター長及び秘書・広報室の中植専門職員には大変なご努力をいただきました。ここに改めて感謝したいと思います。

3 ビジュアルな広報資料の充実

次に、ビジュアルな広報資料の充実です。これまでも京都大学概要などの紙媒体の資料について、写真や図表を積極的に取り入れ、見やすいものとするよう努めてきましたが、新たにDVDの作成とマンガによる大学紹介冊子の作成に取り組んでいます。

まず、DVDですが、私自身、これまで様々な機会に京都大学全体の概要のプレゼンテーションを行う機会があり、その都度自分なりに作ってはいたしましたが、適当な材料があればいいと思っていました。また、特に最近海外において、学術交流や学生交流の話をするとき、導入として使えるものがほしいという声を、多くの教職員の方から伺いました。

そこで、京都大学を紹介するDVDの作成にとりかかり、本年3月に完成しました。二部構成となっており、第一部は動画編で京都大学の歴史、教育・研究・社会貢献活動及び留学生生活を15分間で紹介しています。第二部はデータ編で、京都大学の基本理念、組織、教職員・学生数、財務状況や各学部・

研究科、研究所等の概要のスライドを収録しています。特筆したいのは、日本語、英語、中国語、韓国語の4カ国語のバージョンが一枚に収録されていることです。このDVDはホームページ上の「動画で見る京都大学」からもダウンロードできますので、積極的に活用されることを期待しています。

次に、マンガによる京都大学紹介プロジェクトについて紹介します。これは、尾池総長の発案にかかるものであり、京大のことを中高生にも分かりやすく紹介する冊子を作ろうとするものです。マンガの作成については、尾池総長から京都精華大学の島本浣学長に依頼し、同大学マンガ学部の学生の協力を得るという大学間協力事業の性格も持っています。また、若い世代の発想や感性を大切にする観点から、その作成に当たっては、京都大学の学生と若手職員及び京都精華大学の学生合わせて20数名が集まって構想を練り、さらに6チームに分かれて京都大学の研究室やフィールドなどを訪問し教員から取材を行ってきました。まさに学生・職員・教員の協働作業であり、今後のモデルになることを期待しています。完成は本年9月を予定しており、中学校、高等学校や図書館などに広く配布したいと考えています。

おわりに

以上に述べたほかにも、近年、広報活動については、年次報告書やファイナンシャル・レポートの発行、メールマガジンの発刊を行ったり、広く社会連携活動として、未来フォーラム、東京フォーラム、大阪フォーラムなどを開催したりするなど、その充実に努めています。

しかし、前述したような広い意味での広報活動が十分に連携して戦略的に行われているかといえば、まだまだと言わざるを得ません。また、そもそも担当する職員数も少ない中で、様々な活動を本当によくやっていると思っています。今後、広報の企画・実施体制を一層充実する必要があると考えています。それとともに、やはりすべての教職員がいわば広報マインドを持って、その諸活動に関する情報を積極的に提供していただき、また自ら様々な機会に発表していただくなどのご協力をお願いいたします。

本稿執筆後、7月22日付で本学を辞することになりました。これまでの皆様方のご厚情に心から感謝申し上げますとともに、京都大学の益々の発展を祈念いたします。

大学の動き

「地球温暖化」に関する国連事務総長とのタウンミーティングを開催

6月29日(日)午前10時30分から、芝蘭会館稲盛ホールにおいて、パン・ギムン国連事務総長をお迎えして、『「地球温暖化」京都タウンミーティングー『京都』から国連事務総長へのメッセージ』(京都大学主催・外務省後援)を開催した。参加者は200名を超え、内外の報道関係者も加えて、会場は超満員の大盛況となった。

タウンミーティングでは、松本紘理事・副学長の開会の挨拶に始まり、まずパン・ギムン国連事務総長により地球温暖化問題に関

するスピーチが行われた後、本学法学部出身の赤坂清隆国連事務総長特別顧問をモデレーターとして、余田成男理学研究科教授、佐和隆光経済研究所特任教授・立命館大学教授、砥山浩司関西電力(株)環境室地球環境グループマネジャー、浅岡美恵 NPO 法



質問に答えるパン・ギムン国連事務総長



メッセージを伝える学生

人気候ネットワーク代表及び公共政策大学院学生 栄久庵太郎氏からの提言、また一般参加者からの質問の形で、パン・ギムン国連事務総長にさまざまなメッセ

ージが伝えられた。パン・ギムン国連事務総長は、さまざまな提言や質問に一つ一つ答えたうえで、地球温暖化問題に対する国連の積極的な関わりに強い意欲を示された。最後に閉会の挨拶において、初宿正典法学研究科長から感謝の意が述べられ、参加者からのパン・ギムン国連事務総長に対して大きな拍手で、タウンミーティングは終了した。



謝辞を述べる初宿研究科長

(国際部・大学院法学研究科・公共政策連携研究部)

ケビン・ラッド オーストラリア首相の講演会を開催

6月9日(月)午後1時から、芝蘭会館稲盛ホールにおいてオーストラリア首相ケビン・ラッド氏の講演会を開催した。

当日は、ケビン・ラッド首相と尾池総長が固い握手を交した後、「豪日の取り組みー気候変動と軍縮・不拡散、地球規模の課題に向かってー」



尾池総長とケビン・ラッド首相

(Australia and Japan -Working Together on the Global Challenges of Climate Change and Disarmament)と題する講演が行われ、400名を超える多くの参加者が聞き入った。

就任したその日に「京都議定書」にサインしたケビン・ラッド首相は、この京都という地に來られたことを非常に喜んでおられた。講演は、エネルギーや

気候変動の問題から今後日本と協力して地球規模の課題に取り組んでいきたいという希望を述べられ、非常に感銘を与える講演であった。参加者から出された質問にも一つ一つ丁寧に答えられ、最後に会場全体が大きな拍手で感謝の意を表して終了した。



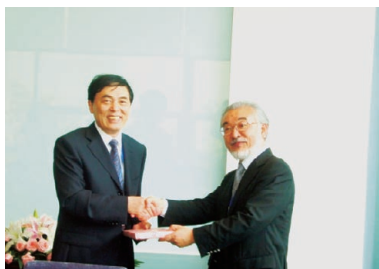
講演の様子

(国際部)

東アジア研究型大学協会(AEARU)第22回理事会の開催

6月12日(木)に南京大学(中国江蘇省 南京市)において、東アジア研究型大学協会(AEARU)第22回理事会が開催された。AEARUは東アジア地域(中国、台湾、韓国、日本)の17の研究型大学で構成される大学連合であり、本学は議長校として、加盟大学間の学術交流に積極的な役割を果たしている。

理事会には、5大学から代表及び参加者約30名が集まり、前年度の活動報告及び今年度の事業計画を了承した。会議冒頭、尾池総長から、四川省における大地震による犠牲者に対し特に発言があり、出席者全員による黙とうが捧げられた。また本学が2008年1月からAEARUの議長校を韓国・浦項工科大学校から引き継いだこと及びsecretaryの指名



開催大学の南京大学 陳 駿
(CHEN JUN)学長と挨拶する尾池総長

及び事務局の本学内設置を確認した。

午後から尾池総長は、江蘇省地震局を訪問し研究の進展及び最近の状況について同局研究者と意見交換及び南京地震科学館の視察を行った。また、別のグループでは、南京大学校史博物館を訪問し同大学の歴史的資料を見学した。



理事会の様子

(国際部)

国際フォーラム「多極的世界観の構築と外国語教育—多様な言語文化への挑戦」を開催

高等教育研究開発推進機構では6月20日(金)午後4時30分から、百周年時計台記念館百周年記念ホールにて、国際フォーラム「多極的世界観の構築と外国語教育—多様な言語文化への挑戦」を開催した。

現在は、グローバル化の進展がアメリカの一極集中を加速させ、「英語」の単独支配を強化しているように見えるが、現実には民族問題の噴出や、BRICs(ブラジル、ロシア、インド、中国)の台頭に認められるように、現代世界は多極化へと向かいつつある。この点で、母語プラス2言語の多言語教育をヨーロッパ標準とし、言語文化の多様性を推進しているヨーロッパの言語政策は、外国語を学習することは単に技能を身につけるだけでなく、外国語を話している人々の文化や価値観を学ぶこと



ドミニク・ドヴィルバン氏

でもあるから評価できる。一方で日本の外国語教育は英語教育へ一極化しつつあり、言語文化の多様性を推進し、学習者による多極的世界観の構築を可能とするような外国語教育体制を縮小しつつある。したがって、かつてないほどに文化的多様性を理解し、多極的世界観を構築することが求められている今、英語以外の外国語を学ぶ意義を再認識する必要がある



シンポジウム

る。このような問題意識のもとに、このフォーラムは学部学生を鼓舞するメッセージを発信し、京都大学の教育・研究の国際化を力強く推進することを目指して開催され、一般参加者を含め総計500名を超える市民・教職員・学生が参加した。第一部では「多極的世界における多言語主義と文化多様性の挑戦」と題する、フランス共和国元首相ドミニク・ドヴィルパン氏による基調講演が行われ、第二部では佐伯啓思人間・環境学研究科教授から「混迷の中の世界

ーアメリカ一極主義から多極的世界へ」、三浦信孝中央大学教授から「日本の国策としての多言語主義」と題する報告のあと、小倉紀蔵人間・環境学研究科准教授の司会で三氏によるシンポジウムが行われた。英語以外の外国語を学ぶ意義を再認識し、多極的世界観を構築することの重要性について考えた意義深いフォーラムとなった。

(教育推進部)

インドネシア大学との学術交流

本学とインドネシア大学は、大学間学術交流協定の締結について協議を重ねてきたが、このたび本学との教育・研究の交流と協力を推進するための「学術交流に関する一般的覚書」を交換した。

インドネシア大学との「覚書」は、本学尾池総長とインドネシア大学 Gumilar Rusliwa Somantri 学長の署名により、平成20(2008)年4月11日に交換された。

同大学は、1950年に創設された総合大学。医学、歯学、数理学、工学、法学、経済学、人文科学、政治・社会科学、心理学等の12学部と大学院がある。教員数は約3,100人。学部生は約28,000人。院生は約10,800人。ホームページは <http://www.ui.ac.id/>

(国際部)

第2回京都大学オープンコースウェア総長懇談会を開催

6月23日(月)午後5時から、京大会館において、尾池和夫総長、東山紘久、丸山正樹、松本紘、西村周三の各理事・副学長をはじめ、76名の教職員等の出席を得てオープンコースウェア総長懇談会を開催した。

同懇談会では、尾池和夫総長、松本紘理事・副学長の挨拶の後、村上憲郎 Google Japan 代表取締役社長(本学工学部卒業)による「OCW@KU とのコラボレーション」並びに美濃導彦学術情報メディアセンター長による「OCW@KU の未来」と題する講演が行われた。続いて土佐尚子学術情報メディアセンター特別教育研究教授の司会により、OCW にコンテンツを提供している20名の教員による事例紹介がリレー方式で行われた。予定時間を1時間あまり超過するなか、参加者は、最後まで熱心に聴講した。OCW 総長懇談会の内容については、京都大学オープンコースウェア <http://ocw.kyoto-u.ac.jp/jp/> で公開している。

OCW@KU は、本学で行われている講義の教材をウェブで公開し、人類の知的財産の蓄積に貢献するとともに、京都大学のビジビリティを高め、世界

中から優秀な教員、学生を集めることを目的としたものである。現在108の講義ノートと199の映像コンテンツ、さらに湯川秀樹先生、西田幾多郎先生のOCW がアップされており、YouTube(Google 傘下)の協力のもと京都大学 OCW の映像コンテンツを公開することにより、より一層広い世界へ京都大学の知の財産を発信提供していくこととしている。

京都大学 OCW プロジェクトでは、OCW 掲載講義ノートを募集している。

詳しくは、<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/> から「OCW 掲載講義ノート募集」をご覧ください。



熱心に聞き入る参加者

(教育推進部)

国際交流多目的ホール竣工記念披露式典を挙行

6月2日(月)、国際交流多目的ホール竣工記念披露式及び祝賀会を同ホールにおいて開催した。

このホールは、財団法人 武田科学振興財団の特別事業「武田記念外国人留学生支援助成2005」による本学プロジェクトの一環として竣工したものである。

式典では、オープニングのテープカットの後、尾池和夫総長の式辞と同財団への感謝状が贈呈され、財団理事長の横山巖氏よりご祝辞をいただいた。その後、ホール内の設備見学に続いて祝賀会を行った。



式辞を述べる尾池総長

祝賀会は学内外から多数の出席者を得、横山俊夫国際交流推進機構長並びに森純一国際交流センター長の挨拶の後、オランダから交換留学生として来日し、現在、理学部に在籍中のステファニー・コルクさんより留学生を代表して感謝の言葉が披露された。

最後は西村周三理事・副学長から今後の国際交流・学生交流についての抱負と展望そして期待が述べられ、祝賀会は盛況のうちに幕を閉じた。

(国際部)



オープニング・テープカット

永年勤続者表彰式を挙行

6月19日(木)、永年勤続者表彰式が百周年時計台記念館百周年記念ホールにおいて開催され、丸山正樹理事・副学長(総長代理)、木谷雅人理事・副学長、被表彰者79人、関係者(部局長、部課長等)約40人が出席した。

本学は、創立記念日(6月18日)において教職員等としての勤続年数が30年及び20年を迎えた教職員並びに有期雇用教職員に対し、その永年にわたる勤労を讃え表彰している。今年度の被表彰者数は、勤続30年が56人、勤続20年が60人であった。

表彰式では出席の被表彰者の氏名を紹介した後、丸山理事・副学長から、被表彰者代表の西嶋由孝環境安全衛生部長に表彰状及び記念品が授与され、被表彰者の永年の勤労に対する謝辞が述べられた。続

いて、西嶋被表彰者代表から答辞が述べられ、厳かな雰囲気の中で表彰式は終了した。



答辞を述べる西嶋環境安全衛生部長(右)と丸山正樹理事・副学長(総長代理)

(総務部)

人権に関する講演会の開催

6月23日(月)午後3時から附属図書館 AV ホールにおいて、「人権に関する講演会」が開催された。

本講演会は、富永茂樹人権委員会ハラスメント専門委員会委員長(人文科学研究所 教授)の挨拶後、弁護士法人英知法律事務所岡村久道弁護士による「違法有害サイト問題」というテーマで講演が行われた。

講演は、主に違法・有害情報の現状・有害情報対策等について述べられ、参加した教職員及び学生約60名はメモをとりながら熱心に聞き入っていた。



講演する岡村久道弁護士

(総務部)

平成20年度グローバル COE プログラムの採択結果

平成20年度グローバル COE プログラムには、国公立大学130校から315件の申請があり、グローバル COE プログラム委員会により行われた審査において、本学からは6件が採択された(平成20年度全採択件数68件[29校])。

「グローバル COE プログラム」は、平成17年9月の中央教育審議会答申「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」や平成18年3月に閣議決定された「科学技術基本計画」等

を踏まえ、我が国の大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、世界最高水準の研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るため、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、もって、国際競争力のある大学づくりを推進することを目的としている。

なお、平成19年度においても、本学から6件が採択されている。

分野	中核となる専攻等名	拠点プログラム名称	拠点リーダー名
医学系	医学研究科医学専攻	生命原理の解明を基とする医学研究教育拠点	医学研究科 教授 成宮 周
数学・物理学・地球科学	理学研究科数学・数理解析専攻	数学のトップリーダーの育成 －コア研究の深化と新領域の開拓	理学研究科 教授 深谷 賢治
数学・物理学・地球科学	理学研究科物理学・宇宙物理学専攻	普遍性と創発性から紡ぐ次世代物理学 －フロンティア開拓のための自立的人材養成－	理学研究科 教授 川合 光
機械・土木・建築・その他工学	工学研究科都市環境工学専攻	アジア・メガシティの人間安全保障工学拠点	工学研究科 教授 松岡 譲
社会科学	文学研究科行動文化学専攻	親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点	文学研究科 教授 落合恵美子
学際・複合・新領域	エネルギー科学研究科 エネルギー基礎科学専攻	地球温暖化時代のエネルギー科学拠点 －CO2ゼロエミッションをめざして	エネルギー科学研究科 教授 八尾 健

(研究推進部)

部局の動き

大学院情報学研究科が米国カリフォルニア大学バークレー校情報スクールと連携

6月26日、大学院情報学研究科は、カリフォルニア大学バークレー校インフォメーションスクール(University of California, Berkeley, School of

Information)と、教育研究に関する部局間協定、並びに学生交流に関する覚書を締結した。

本協定では、情報の信頼性評価、情報リテラシー

促進などを含む共同教育研究を対象とし、京都大学グローバル COE「知識循環社会のための情報教育研究拠点」(拠点リーダー：田中克己教授)における人材育成推進のための国際的教育研究の拠点形成を推進するものである。

今回の協定締結により、情報学における共同教育研究や学生交流のみならず、経営学をはじめとする複合学際領域での学術交流がさらに活発に行われることが期待される。

(大学院情報学研究科)

寄附講座の設置

7月1日、大学院工学研究科に寄附講座「先端電池基礎講座」が新設された。今回設置された講座の概要は以下のとおり。

1. 部 局 名 大学院工学研究科
2. 名 称 先端電池基礎講座
(Advanced battery research laboratory)
3. 寄 附 者 トヨタ自動車株式会社
4. 寄附金額 総額9千万円
5. 設置期間 平成20年7月1日～平成23年3月31日
6. 担当教員 特定教授(寄附講座) 西尾 晃治
特定助教(寄附講座) 宮崎 晃平
7. 研究目的 低炭素社会の切り札の一つである電気自動車への適用を目指した二次電池の研究、並びにこれにかかわる技術者の教育を行う。
8. 研究内容 低炭素社会の切り札の一つである電気自動車への適用を目指した二次電池に関して、既存電池の電池反応の解明による高性能化と、その延長上

にはない革新的な電池の開発の基礎となる開発の指針を提出することを目指す。

9. 研究課題
 - ・電池性能を飛躍的に向上させる新規な正極活物質、負極活物質及び電解質の材料設計と合成に関する基礎研究
 - ・新材料を用いた新しい電池反応メカニズムの提案
 - ・電池材料の性能を高度に発現させるための電極／電解質界面形成方法の指針の提出を目指した基礎研究
 - ・出力、寿命などの重要な電池性能に係わる新しい評価手法の研究開発
 - ・その他

(大学院工学研究科)

日誌 2008.5.1 ～ 5.31

- 5月2日 放射性同位元素等管理委員会
- 9日 企画委員会
- 〃 財務委員会
- 〃 学生部委員会
- 12日 役員会
- 15日 総長選考学内予備投票
- 〃 臨時教育研究評議会
- 19日 役員会
- 20日 企画委員会
- 21日 総長選考会議
- 22日 総長選考学内意向投票

- 23日 総長選考会議
- 〃 博士学位授与式
- 26日 財務委員会
- 〃 企画委員会
- 〃 名誉教授称号授与式
- 〃 役員会
- 27日 部局長会議
- 〃 教育研究評議会
- 〃 全学情報セキュリティ委員会
- 28日 国際交流委員会

資料

役員の報酬等および職員の給与の水準の公表について 国立大学法人京都大学の役職員の報酬・給与等について

I 役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

- ①平成19年度における役員報酬についての業績反映のさせ方
 理事の報酬については、個別の業績評価を考慮し決定することとしている。
 なお、役員の賞与は、役員としての業務に対する貢献度を総合的に勘案して増額または減額することがあると定めているが、今年度については結果として同率となった。

②役員報酬基準の改定内容

法人の長
 理事
 理事(非常勤)
 監事
 監事(非常勤)

なし

2 役員の報酬等の支給状況

役名	平成19年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況		前職
	千円	報酬(給与)	賞与	その他(内容)	就任	退任	
法人の長	24,668	15,888	6,964	1,588 (都市手当) 228 (通勤手当)			
A 理事	18,458	11,856	5,196	1,186 (都市手当) 220 (通勤手当)			
B 理事	17,474	11,064	4,849	1,106 (都市手当) 455 (通勤手当)			※
C 理事	17,511	11,064	4,849	1,106 (都市手当) 492 (単身赴任手当)			◇
D 理事	17,019	11,064	4,849	1,106 (都市手当)			※
E 理事	17,261	11,064	4,849	1,106 (都市手当) 242 (通勤手当)			※
F 理事	17,270	11,064	4,849	1,106 (都市手当) 251 (通勤手当)			※
G 理事	17,043	11,064	4,849	1,106 (都市手当) 24 (通勤手当)			※
A 監事	13,438	8,736	3,829	873 (都市手当)		3月31日	
A 監事 (非常勤)	718	665	0	53 (通勤手当)		3月31日	

注1:「都市手当」とは、地域の民間賃金水準を報酬(給与)に反映するよう、物価等も踏まえて支給されているものである。

注2:「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後の独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄。

3 役員の退職手当の支給状況(平成19年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

区分	支給額(総額)	法人での在職期間	退職年月日	業績勘案率	摘要	前職
法人の長	千円	年 月			該当者なし	
理 事	千円	年 月			該当者なし	
監 事	千円	年 月			該当者なし	

II 職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項

①人件費管理の基本方針

定員(人数)と予算(金額)により人件費管理をしている。
 効率化係数による人件費の削減及び行政改革の重要方針に基づく総人件費改革の5%削減に対応して、定員削減等の雇用調整や戦略的な定員の再配置、事務組織の改革、業務の簡素化・合理化等事務改革を方針として定めている。

②職員給与決定の基本方針

ア 給与水準の決定に際しての考慮事項とその考え方
 法人化移行時に本学の方針として、給与に関しては国に準拠すると定めており、俸給表及び諸手当制度については国家公務員の給与水準等を考慮し、決定している。

イ 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方

[年功序列的な運用から、能力・実績をより重視した人事給与制度への移行を検討し、徐々に実施している。]
[能率、勤務成績が反映される給与の内容]

給与種目	制 度 の 内 容
賞与：勤勉手当（査定分）	期間内における職員の業績を評価し、勤務成績に応じた支給率になるよう実施している。
昇 給	昇給期間における勤務成績により実施している。
昇 格	長期的な期間（3年）における勤務成績を加味して実施している。

ウ 平成19年度における給与制度の主な改正点

国に準拠して以下の改正を行った。（実施日：平成19年4月1日）

1) 俸給表の改訂

- ・俸給月額引上げ（初任給を中心に若年層に限定した改定 一般職俸給表（一）1級相当は1.1%，2級相当は0.6%，3級相当は0.0%（3級相当は2級相当の引上げ部分に対応するところのみ），4級相当以上は改定なし）
- ・俸給の調整額の調整基本額の引上げ（医療職俸給表（一）1級のみ改定 100円引上げ）

2) 諸手当の改正

- ・子等に係る扶養手当の引き上げ（6,000円→6,500円）
- ・勤勉手当の引き上げ（対18年度）
（19年度 6月期：変更なし 12月期：0.05月分）
（20年度以降 6月期：0.025月分 12月期：0.025月分）

2 職員給与の支給状況

①職種別支給状況

区 分	人 員	平均年齢	平成19年度の年間給与額（平均）			
			総額	うち所定内		うち賞与
				うち通勤手当		
常勤職員	人 4,345	歳 44.5	千円 7,977	千円 5,736	千円 137	千円 2,241
事務・技術	人 1,170	歳 42.7	千円 6,046	千円 4,410	千円 153	千円 1,636
教育職種（大 学 教 員）	人 2,533	歳 46.9	千円 9,475	千円 6,769	千円 142	千円 2,706
医療職種（病 院 医 師）	人 該当者なし	歳	千円	千円	千円	千円
医療職種（病院看護師）	人 469	歳 36.4	千円 5,315	千円 3,880	千円 63	千円 1,435
医療職種（病院医療技術職員）	人 141	歳 41.4	千円 5,992	千円 4,363	千円 137	千円 1,629
指定職種	人 5	歳 60.3	千円 16,927	千円 12,255	千円 277	千円 4,672
技能・労務職種	人 27	歳 55.9	千円 6,018	千円 4,357	千円 137	千円 1,661
非常勤職員	人 395	歳 37.8	千円 4,665	千円 3,655	千円 79	千円 1,010
事務・技術	人 64	歳 55.6	千円 4,475	千円 3,261	千円 109	千円 1,214
教育職種（大 学 教 員）	人 136	歳 40	千円 6,771	千円 4,989	千円 113	千円 1,782
医療職種（病 院 医 師）	人 127	歳 31	千円 2,640	千円 2,640	千円 41	千円 0
医療職種（病院看護師）	人 40	歳 26	千円 3,956	千円 2,925	千円 25	千円 1,031
医療職種（病院医療技術職員）	人 21	歳 27.9	千円 3,997	千円 3,008	千円 105	千円 989
技能・労務職種	人 2	歳 —	千円 —	千円 —	千円 —	千円 —
教育職種（外国人教師等）	人 5	歳 50.9	千円 9,753	千円 6,857	千円 70	千円 2,896

注1：常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

注2：在外職員、任期付職員及び再任用職員の区分については、該当者がいないため表を省略した。

注3：「指定職種」とは、特に指定された高度な業務を行う職種を示す。

注4：「技能・労務職種」とは、特定の技能業務、労務作業に従事する職種を示す。

注5：非常勤職員の「技能・労務職種」については、該当者が2人のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、人数以外は記載していない。

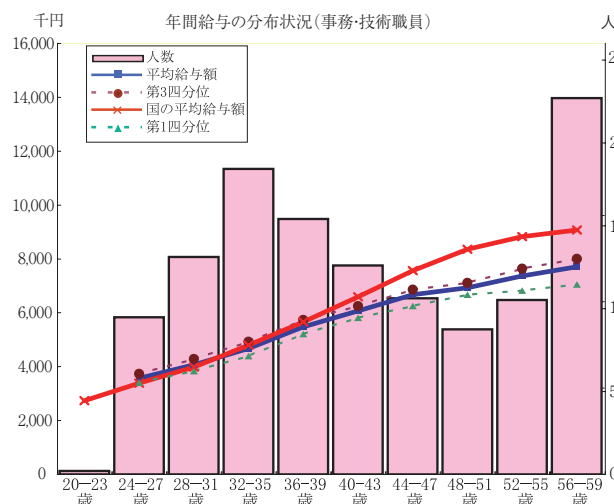
〔年俸制適用者〕

非常勤職員	人 16	歳 40.8	千円 5,860	千円 5,860	千円 0	千円 0
事務・技術	人 3	歳 54.2	千円 5,455	千円 5,455	千円 0	千円 0
教育職種(大学教員)	該当者なし		千円	千円	千円	千円
医療職種(病院医師)	人 13	歳 37.7	千円 5,954	千円 5,954	千円 0	千円 0
医療職種(病院看護師)	該当者なし		千円	千円	千円	千円
医療職種(病院医療技術職員)	該当者なし		千円	千円	千円	千円 989
技能・労務職種	該当者なし		千円	千円	千円	千円
教育職種(外国人教師等)	該当者なし		千円	千円	千円	千円

注1：常勤職員，在外職員，任期付職員及び再任用職員の区分については，該当者がいないため表を省略した。

注2：年俸制適用者については，本学では常勤職員として取り扱っている。

②年間給与の分布状況(事務・技術職員／教育職員(大学教員)／医療職員(病院看護師))〔在外職員，任期付職員及び再任用職員を除く。以下，⑤まで同じ。〕



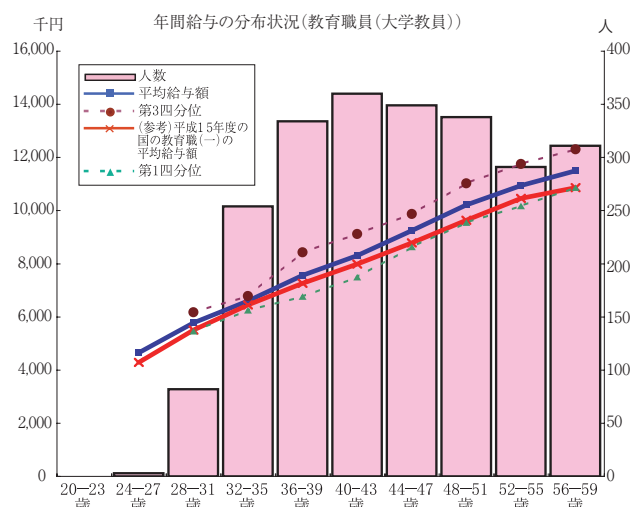
注1：①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下，⑤まで同じ。

注2：年齢20～23歳の該当者は2人であるため，当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから，年間給与額の第1・第3分位及び平均給与額については表示していない。

(事務・技術職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	四分位 第1分位	平均	四分位 第3分位
部 長	14	57.6	9,220	10,092	10,837
課 長	56	55.6	8,330	8,815	9,250
専門員	109	54.1	7,092	7,413	7,780
専門職員	412	47.9	6,015	6,541	7,045
主任	258	39.9	4,894	5,441	5,938
係 員	321	31.7	3,682	4,213	4,437

【注】「課長」には，課長相当職である「室長」及び「事務長」を含む。

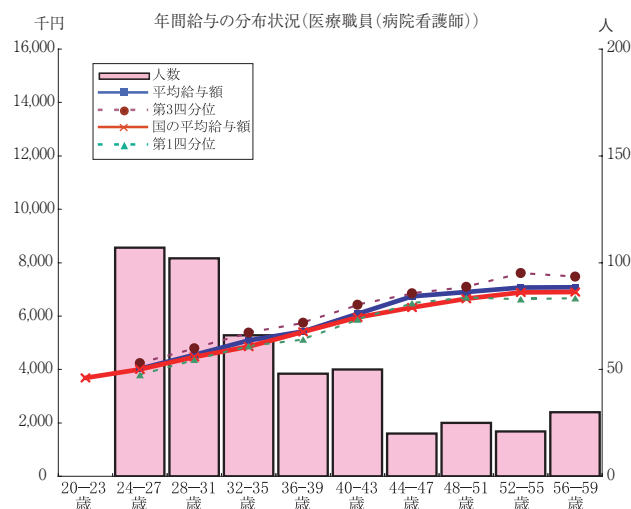


注：年齢24～27歳の該当者は3人であるため，当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから，年間給与額の第1・第3分位については表示していない。

(教育職員(大学教員))

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	四分位 第1分位	平均	四分位 第3分位
教授	945	54.5	10,807	11,600	12,175
准教授	705	45.2	8,703	9,121	9,715
講師	131	44.2	7,821	8,419	9,040
助教	735	39.1	6,336	6,854	7,420
助手	3	55.5	—	7,259	—
教務職員	14	49.5	5,384	6,123	6,645

注：助手の該当者は3人のため，当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから，年間給与額の第1・第3分位については記載していない。



(医療職員(病院看護師))

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	四分位 第1分位	平均	四分位 第3分位
看護部長	1	—	—	—	—
副看護部長	3	46.5	—	6,658	—
看護師長	124	44.5	5,636	6,435	7,111
看護師	341	33.4	4,131	4,800	5,274

注1：看護部長の該当者は1人のため、当該個人に関する情報が特定されることから、「平均年齢」以下の事項については記載していない。

注2：副看護部長の該当者は3人のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、年間給与額の第1・第3分位については記載していない。

③職級別在職状況等(平成20年4月1日現在)

(事務・技術職員／教育職員(大学教員)／医療職員(病院看護師))

(事務・技術職員)

区分	計	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級
標準的な職位		係員	主任	専門職員主任	専門員専門職員	課長専門員	課長	部長	部長	部長	部長
人員(割合)	1,170	99 (8.5%)	265 (22.6%)	520 (44.4%)	182 (15.6%)	59 (5.0%)	37 (3.2%)	6 (0.5%)	2 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
年齢(最高～最低)		51～23	55～26	59～35	59～42	59～41	59～45	59～45			
所定内給与年額(最高～最低)		3,222～2,195	4,241～2,544	5,620～3,305	5,912～4,333	7,056～4,854	7,636～6,215	7,965～6,950			
年間給与額(最高～最低)		4,459～3,027	5,741～3,478	7,678～4,569	8,311～6,092	9,455～6,908	10,395～8,663	10,997～9,574			

注：8級における該当者が2人のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、「年齢(最高～最低)」以下の事項について記載していない。

(教育職員(大学教員))

区分	計	1級	2級	3級	4級	5級	6級
標準的な職位		教務職員	助教助手	講師	准教授	教授	教授
人員(割合)	2,533	14 (0.6%)	738 (29.1%)	134 (5.3%)	706 (27.9%)	941 (37.1%)	0 (0.0%)
年齢(最高～最低)		58～31	62～26	62～29	62～31	62～38	
所定内給与年額(最高～最低)		4,958～3,543	6,175～3,147	7,294～3,874	7,884～4,407	13,332～6,037	
年間給与額(最高～最低)		6,864～4,874	8,473～4,318	10,039～5,284	10,639～6,117	17,643～8,601	

(医療職員(病院看護師))

区分	計	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級
標準的な職位		准看護師	看護師	看護師長	副看護部長 看護師長	看護部長 副看護部長	看護部長	看護部長
人員(割合)	469	5 (1.1%)	340 (72.5%)	79 (16.8%)	43 (9.2%)	2 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
年齢(最高～最低)		58～54	59～24	59～30	59～38			
所定内給与年額(最高～最低)		4,861～4,087	5,338～2,656	5,795～3,275	5,638～4,009			
年間給与額(最高～最低)		6,559～5,619	7,266～3,626	7,999～4,518	8,002～5,683			

注：5級における該当者が2人のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、「年齢(最高～最低)」以下の事項について記載していない。

④賞与(平成 19 年度)における査定部分の比率
(事務・技術職員／教育職員(大学教員)／医療職員(病院看護師))

(事務・技術職員)

区 分		夏季 (6 月)	冬季 (12 月)	計
管理職員	一律支給分 (期末相当)	64.4 %	65.9 %	65.2 %
	査定支給分 (勤勉相当) (平均)	35.6 %	34.1 %	34.8 %
	最高～最低	46.1 ～ 32.6 %	44.0 ～ 25.6 %	44.6 ～ 31.0 %
一般職員	一律支給分 (期末相当)	65.5 %	66.8 %	66.2 %
	査定支給分 (勤勉相当) (平均)	34.5 %	33.2 %	33.8 %
	最高～最低	39.1 ～ 31.6 %	38.1 ～ 23.8 %	37.3 ～ 27.9 %

(教育職員 (大学教員))

区 分		夏季 (6 月)	冬季 (12 月)	計
管理職員	一律支給分 (期末相当)	63.6 %	64.6 %	64.1 %
	査定支給分 (勤勉相当) (平均)	36.4 %	35.4 %	35.9 %
	最高～最低	46.1 ～ 32.8 %	43.8 ～ 31.3 %	43.5 ～ 32.0 %
一般職員	一律支給分 (期末相当)	65.6 %	66.9 %	66.3 %
	査定支給分 (勤勉相当) (平均)	34.4 %	33.1 %	33.7 %
	最高～最低	45.7 ～ 31.7 %	43.8 ～ 30.1 %	43.5 ～ 30.9 %

(医療職員 (病院看護師))

区 分		夏季 (6 月)	冬季 (12 月)	計
管理職員	一律支給分 (期末相当)	65.2 %	67.9 %	66.6 %
	査定支給分 (勤勉相当) (平均)	34.8 %	32.1 %	33.4 %
	最高～最低	36.4 ～ 33.1 %	32.6 ～ 31.6 %	34.4 ～ 32.3 %
一般職員	一律支給分 (期末相当)	64.9 %	66.2 %	65.6 %
	査定支給分 (勤勉相当) (平均)	35.1 %	33.8 %	34.4 %
	最高～最低	39.1 ～ 31.8 %	38.1 ～ 30.4 %	37.3 ～ 31.9 %

⑤職員と国家公務員及び他の国立大学法人等との給与水準(年額)の比較指標
(事務・技術職員／教育職員(大学教員)／医療職員(病院看護師))

(事務・技術職員)

対国家公務員 (行政職 (一))
対他の国立大学法人等

90.3
103.5

(医療職員 (病院看護師))

対国家公務員 (医療職 (三))
対他の国立大学法人等

102.4
106.3

(教育職員 (大学教員))

対他の国立大学法人等

104.9

注：当法人の年齢別人員構成をウエイトに用い、当法人の給与を国の給与水準(「対他の国立大学法人等」においては、すべての国立大学法人等を一つの法人とみなした場合の給与水準)に置き換えた場合の給与水準を 100 として、法人が現に支給している給与から算出される指数をいい、人事院において算出

給与水準の比較指標について参考となる事項

○事務・技術職員

項目	内容		
指数の状況	対国家公務員 90.3		
	参考	地域勘案	92.0
		学歴勘案	89.0
		地域・学歴勘案	91.5
国に比べて給与水準が高くなっている定量的な理由			
給与水準の適切性の検証	【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合54.0% (国からの財政支出額 73,158,276,000円, 支出予算の総額135,543,720,000円:平成19年度予算) 【検証結果】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合は54.0%となっているが、累積欠損はなく、給与水準はおおむね適切であると考えられる。		
	【累積欠損額について】 累積欠損額 0 円(平成18年度決算)		
講ずる措置	国の財政支出における人件費の割合を考慮した適正な給与水準の確保に努める。		

○医療職員(病院看護師)

項目	内容		
指数の状況	対国家公務員 102.4		
	参考	地域勘案	100.4
		学歴勘案	102.0
		地域・学歴勘案	100.8
国に比べて給与水準が高くなっている定量的な理由	病院が都市手当10%の京都市に所在すること、医療の高度化・専門化に対応した看護を提供することができるより資質の高い看護師が求められているため、結果として大学卒の割合が25.6%と高い割合となったこと、この二つの主要因により対国家公務員の指数を上回ったと考えられる。		
給与水準の適切性の検証	【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合54.0% (国からの財政支出額73,158,276,000円, 支出予算の総額135,543,720,000円:平成19年度予算) 【検証結果】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合は54.0%となっているが、累積欠損はなく、給与水準はおおむね適切であると考えられる。		
	【累積欠損額について】 累積欠損額 0 円(平成18年度決算)		
講ずる措置	国の財政支出における人件費の割合を考慮した適正な給与水準の確保に努める。		

教育職員(大学教員)と国家公務員(平成15年度の教育職(一))との給与水準(年額)の比較指標 104.8

Ⅲ 総人件費について

区 分	当年度 (平成19年度)	前年度 (平成18年度)	比較増△減	中期目標期間開始時 (平成16年度)からの増△減
給与、報酬等支給総額 (A)	千円 40,946,686	千円 42,046,289	千円 (%) △ 1,099,603 (△ 2.6)	千円 (%) △ 2,402,693 (△ 5.5)
退職手当支給額 (B)	千円 5,097,743	千円 4,567,681	千円 (%) 530,062 (11.6)	千円 (%) △ 216,591 (△ 4.1)
非常勤役職員等給与 (C)	千円 12,216,053	千円 10,313,105	千円 (%) 1,902,948 (18.5)	千円 (%) 4,129,891 (51.1)
福利厚生費 (D)	千円 6,118,017	千円 6,271,062	千円 (%) △ 153,045 (△ 2.4)	千円 (%) 47,144 (0.8)
最広義人件費 (A + B + C + D)	千円 64,378,500	千円 63,198,136	千円 (%) 1,180,364 (1.9)	千円 (%) 15,557,750 (2.5)

注1：「非常勤役職員等給与」においては、寄附金、受託研究費その他競争的資金等により雇用される職員に係る費用及び人材派遣契約に係る費用等を含んでいるため、財務諸表附属明細書の「17役員及び教職員の給与の明細」における非常勤の合計額と一致しない。

注2：「退職手当支給額」欄は、国の常勤職員に相当する、法人の常勤職員に係る退職手当支給額を計上している。

総人件費について参考となる事項

給与、報酬等支給総額について、前年度比がマイナス2.6%となった要因については、定年等退職者と後任者の報酬差額の増、雇用調整及び慎重な教員選考による支給人員の減等が考えられる。

退職手当支給額について、前年度比がプラス11.6%となった要因については、支給人員の増が考えられる。

非常勤役職員等給与について、前年度比がプラス18.5%となった要因については、外部資金による特定有期雇用教員の雇用並びに特定有期雇用医療技術職員の雇用、派遣職員の増加が考えられる。

福利厚生費について、前年度比マイナス2.4%となった要因については、共済組合の短期掛金率及び介護掛金率の引き下げ並びに雇用保険料率の引き下げによることが考えられる。

結果として、最広義人件費については、前年比プラス1.9%となった。

「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」及び「行政改革の重要方針」による人件費削減の取り組みについては、中期目標において、総人件費改革の実行計画を踏まえ、人件費削減の取組を行うこととされており、目標達成の措置として、中期計画において平成21年度までに概ね4%の削減を図ることとした。

なお、引き続き業務の効果的なアウトソーシングにより、人件費の抑制に努めることとしている。

総人件費改革の取組状況

年 度	基準年度 (平成17年度)	平成18年度	平成19年度
給与、報酬等支給総額 (千円)	44,134,027	42,046,289	40,946,686
人件費削減率 (%)		△4.7	△7.2
人件費削減率(補正值) (%)		△4.7	△7.9

注1：「人件費削減率(補正值)」とは、「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)による人事院勧告を踏まえた官民の給与較差に基づく給与改定分を除いた削減率であり、平成18年、平成19年の行政職(一)職員の年間平均給与の増減率はそれぞれ0%、0.7%である。

注2：基準年度(平成17年度)の給与、報酬等支給総額は、法人移行時の人件費予算相当額を基礎に算出した平成17年度人件費予算相当額である。

Ⅳ 法人が必要と認める事項

なし

寸言

一步外へ，そして一步前へ

石田 孝



高校時代は工学部を志望していたが、きっちりと答えがでる理系よりも自分はやはり掴み所がない文系が向いているのではと思い経済学部に入學した。なぜ、掴み所がないというものに惹かれたのかというとやはり規制されたくない、型にはまりたくない、特定したくないという潜在意識が働いたのではないだろうか。これは自由を大事にしろというのが口癖の父親からの影響で、「結婚するときは好きになった女と結婚しろ。家柄や学歴、職業、年齢は一切関係ない。」とも言っていたので父親の信条でもあったと思う。自由というものの裏返しとして自己責任が生まれてくる。すなわち、自分で好きになった相手なら、生涯護り徹して行く人として責任を持つということ。

大学では、経済の何を学んだということもなく、一番印象に残っているのはゼミでお世話になった岸本先生が話されていたシュンペーターという経済学者が唱えていた「イノベーション(技術革新)」という言葉。就職は、銀行、商社よりもメーカーに興味があり、神戸製鋼所に入社した。この頃は、不況で就職難の時代、就職活動には苦労したが、これも学生時代に自由を満喫したツケ(=自己責任)と反省せざるを得なかった。

学生生活でよかったことは大学自体が自由な雰囲気であったこと。また、糺(ただす)の森近くでの下宿生活は、立命館大、同志社大、京大にほぼ等距離にあり3大学の学生が渾然一体となり、ひとつの大学のカルチャーにとらわれない自由闊達な議論ができる下宿仲間がいた。近くには、「のらくろ」という学生向きの食堂があり、仕送りがあると3日間くらいはトルコライスを食べるのが楽しみでもあった。

神戸製鋼所に就職してからも、東京から離れた兵庫県に本拠地を置く会社ということもあって、自由に仕事ができる環境であった。学生、会社生活ともに束縛がなく自由に行動できたことは大変幸せだったと感謝している。

現在は、高速道路会社という一般の民間企業とは相当に異質な会社の会長として経営を任されているが、神戸製鋼グループのコベルコクレーン、コベルコ建機の社長を経験したことが活かされている。それは、グローバルに物事を考えることと、5W1H、すなわち権限と責任を明快にして、自由な発想を活

かすこと。これは大企業、中小企業、どのような組織でも同じことであると考えている。

また、トップに立って経営を任されると、資金繰りから会社の将来ビジョン、社員一人ひとりの幸福を考えなければならないが、私は“最大多数の最大幸福”を第一に考えることにしてきた。社長になった時代はリストラの嵐が吹き荒れ、人を切る経営者が良い経営者という風潮があったが、何たることかと違和感があった。経営者たるもの先を見越して会社の舵取りをすべきである。私もリストラの淵に追いやられていたが、会社が置かれている状況と社会の変化を捉え、販路を海外に求めたり、技術の創り込みを進めるなど、むしろ外に打って出ることであり、業績を回復することができた。

また、良い商品・良いサービスを世の中に提供するためには、協力会社との関係も重要で、下請け・納入業者といった上から見下ろす関係を改め、技術の研鑽を共にに行い、意見を対等に交わすパートナーという関係に発想を転換したことも功を奏したと考えている。高速道路会社においても、まさにこれと同じように改革に取り組んでいるところである。

さて、神戸製鋼所時代に、世界が大きく変わると実感したことがある。それは1989年のベルリンの壁崩壊。1985年ごろ出張先のロンドンのシティーで銀行の頭取たちとの対話の中でEUの話題が盛んに出ていた。欧州では、既に一国では立ち行かなくなりEU統合の大きな流れが起こっていた。ロシアでは情報公開を媒体としてペレストロイカ(構造改革)が進んでいた。そのような世界の中で、日本では一国平和主義の発想しかできていないと感じていた時期に、ベルリンの壁が崩れ東西冷戦構造が終焉を迎えた。やはり世界の中の日本というものの見方をしないとだめだなあと実感した。1989年を境に世界は大きく変わり、さらに今もそれ以上の速度でどんどん変わって行っている状況にある。

これから、社会に出てこの社会を担う青年諸君には、どうか世界を見てほしい。まず世界を見よ、別の言葉で言えば“一步外へ”。絶えず、世界は今、そして日本は今、さらに自分が属する集団は今、という見方をしていけば、自分の身の回りがより良く見えるようになる。すなわち、将来起こることを洞察、予見をすることができるようになる。そして、勇気を持って“一步前へ”。

(いしだ たかし 西日本高速道路株式会社 代表取締役会長、(兼務)西日本高速道路サービスホールディングス株式会社 代表取締役会長、昭和41年経済学部卒)

随想

「教育」の原イメージ

名誉教授 木村 崇

年をとってから同い年のものばかりが集うと、たとえば同期生の同窓会のように、それだけで一種独特の感慨が生じる。名誉教授称号授与式に列席して、私は同様の感を覚えた。次々呼ばれて総長の前に立つ方々は、外見上の年齢は様々だけれど、皆あの戦争の最後の年に生まれ、同じ年に小学生となったのだ。ふと「戦後民主教育」という言葉が脳裏をよぎる。



時計台の二階にしつらえられた会場に参集した数十名の人たちは、いずれも日本がその歴史において最も悲惨な状況におかれていた時に、日本各地で、あるいは私のようにいわゆる「満州」などの外地で生を受けたのである。しかし物心つくまでは、その未曾有の国民的苦難を知ることはなかっただろう。おそらく誰もが、小学校に入学して戦後の民主教育をいきなり体験したところからようやく自意識が始まったものと思う。

私の故郷は北海道の旭川で、最近は墓参りのために帰省するたびに、小学一年の担任だった柳原先生の元を訪れることにしている。先生は、道内のいくつかの小学校で校長を務めて退職した後、重い病を患ってしまった。先生が非常に危険な手術を受けると聞いて駆けつけたのがきっかけで、その後年一度の訪問が始まったのである。さいわい先生は、週三回の透析を受けながらも、奥さんの介護のおかげで気丈に暮らしておられる。

先生は私たちが入学した年に、同じ小学校で職員として働いていた女性と結婚したばかりだった。奥さんの話では、新婚当時夫の、つまり私たちの先生の、帰宅が11時以前になることはなかったという。

私の入った小学校の先生たちは授業が終わった後、居残った生徒たちが観戦する中バスケットボールでたっぷり汗をかくと、職員室に戻って焼酎を飲みながらどうやって教育したらよいかを徹底的に議論していたのだそう。私たちは先生たちを応援しながら試合を見ていたが、試合後にまさかそんな「秘密の会議」が行われていたとは思ひもしなかった。小学一年最初の授業で、先生は風船を何個か持ってきて、いきなりそれを窓から空へ向けて放った。風船はやがてどれも見えなくなってしまった。次の日

から、授業はその風船の行方をあれこれ生徒たちに想像させるかたちで進んだ。私たちは毎日夢中になって議論したことを今でもおぼえている。



中学生になって最初の正月、友人たちと年始の挨拶に行ったときの写真。一番後が柳原先生。手前は先生の長男。右端が私。

退職した今になって突如気づいたのだが、全く偶然に大学の教員となった私の教育経験のどこかには、教師とは生徒に感動を与え、一人一人の想像力を最大限に引き出してやる人であらねばならないという考えが働いていたように思う。つまり、わたしの40年近くに及ぶ教師としての足下には、私たちを育ててくれた先人が築いた磐石の土台があったのだ。それは私の無意識の中で、「教育」というものの原イメージとして培われていたのだった。

京都大学では19年間教壇に立った。名誉教授称号授与式の前夜、これまで私の指導を受けて巣立った諸君や現役の学生・院生たちが、ささやかな、しかしじつに心のこもった送別会を開いてくれた。この19年は改革に次ぐ改革で、わたしの教育者としての本領を十分発揮する余裕はなかった。それでも、私と共に学んだ諸君は、一人一人の言葉にはお世辞と共に一縷の真実がこもっていたと思うのだが、何かしら貴重なものを得たようであった。修士課程修了後や博士課程の途中から専門性の高い職種で活躍する諸君が大多数で、中には昨年司法試験に合格して、司法修習生としての忙しい研修の合間をぬって遅れて会場に駆けつけてくれた人もいた。博士号を取得後ポスドクとして研究にうちこんでいる女性研究者もいる。このようなすばらしい教育の機会を与えてくださった京都大学に対して、私は心から感謝したい。

(きむら たかし 平成20年退職 元人間・環境学研究科教授、専門はロシア文学、ロシア文化論)

洛書

苦くておいしい

矢崎 一史

時は7月。ビールのおいしい季節になった。今年もまた暑そうで、一体地球の温暖化はどこまで行くのだろうかと心配になる。ビールといえば、下戸が当たり前の昨今の若い人たちにとって、これしか飲めないアルコール飲料になって久しく、近年では税制の問題から各ビール会社が知恵を絞って作った、発泡酒や第3のビールが市場を席巻するようになってきている。私個人はやはり正しい「ビール」にこだわらしく、特にホップの風味と苦みの利いたヤツがうまい。しかし、苦い飲み物がおいしいと思うようになったのはいつのことだろう。

苦味はそもそも赤ちゃんなどにとっては「危険信号」であり、毒物として認識し食べないように本能に刷り込まれているようで、苦味を舌に乗せればたちどころに泣き出す。それに対し糖分に代表される甘味は自分にとって良いものとして好む。これは大きく成長するまで残る傾向であり、子供がピーマンを嫌うのを頭ごなしに叱りつけるのはかわいそうなのかもしれない。

ところが、成人して酒などを飲むようになると、苦いものを旨味ととらえる感覚が目覚める。フキノトウ、鮎のウルカなどはその典型で、苦いくせに美味しいと好む左党は多い。この味覚の逆転現象、酒とどう関係があるかは分らないが面白い。ただ、苦くておいしいものというとは多くは食べ物であって、苦味性の嗜好飲料というのは案外少ないようだ。なぜだろうか。

さて話をビールに戻すと、ビールは見た目もきわめて美しい(と私は思う)。真っ白のふわふわの泡もさることながら、特にきらきらと輝くあの金色の透明感は素晴らしい。周りを見回してもあのような金色の艶を持った飲み物は他にない。あの色をビールに与えているのがホップだ。アサ科(クワ科)に属する蔓性植物で、和名はセイヨウカラハナソウ。舶来種だ。和製のカラハナソウも外見はよく似ているが、あの色と香りを与える「ルプリン」と呼ばれる組織の発達が良くなく、ビール醸造には使わない。

ホップは雌雄異株で、ビールに使われる毬花は雌



の花である。その鱗片の根元にできる黄色いツブツブがルプリンで、これがビールに苦味と香りと色を与えている本体である。その起源はメソポタミア文明にあるとされるビールだが、これにホップを入れるようになったのはずいぶん後の中世頃のようなのである。一般的な理解によると、昔の人がビールにいろいろ入れて飲んでいるうちに、たまたまホップを入れたら爽やかな苦味と共に香りが良くなり、なおかつ日持ちも良くなった。これは偶然ではあったが、特に冷蔵庫のない中世で腐敗防止という意味でメリットがあったのでそれが定着した、というのが現在のビールの元となったようである。因みに、ビール大国のドイツでは、「ビール作りに麦芽と水とホップ以外は入れてはいけない」という法律Reinheitsgebotというのが1516年に作られていて(当時、酵母の存在は知られていなかった)、これが食品業界世界最古の法律とも言われており、ドイツでは今も頑なにこれが守られている。いかにもドイツらしいが、特に窮屈なことはないようで、このルールの中で素晴らしい多様性を持ったビールがおそらくは千種以上作られている。どれも個性豊かで楽しい。

人類は長い歴史の中で、身の回りにある植物を巧みに生活に取り入れ、少しでも豊かに、少しでも「良い」生活ができるように工夫してきた。しかし産業革命以来、化石資源に依存する一方通行の消費を行ってきて、そのツケが顕在化してきた。エネルギー・食料・環境の三つ巴のバランス取りは今世紀の一大課題である。原油の値上がりや食料自給率など、認識を新たにすべき問題が続出する中、もう一度「人間にとっての植物」を真剣に見直す時期が来ていると考える。

さて、今宵は何をつまみに一杯呑もうか。



(やざき かずふみ 生存圏研究所教授、専門は植物分子生物学)

栄誉

柏原正樹 数理解析研究所教授が第49回藤原賞を受賞

第49回藤原賞が、藤原科学財団より数理解析研究所所長 柏原 正樹教授に授与され、6月17日に東京学士会館において贈呈式が行われました。同賞は、昭和35年から科学技術の発展に貢献した研究者に贈られ、数学・物理、化学、工学、生物・農学、医学の分野から毎年二人が選ばれています。

以下に、同教授の略歴・業績等を紹介します。

柏原教授は、昭和22年生れ、同46年東京大学大学院理学系研究科修士課程を修了後、同年本学数理解析研究所助手、同49年名古屋大学理学部助教授、同53年数理解析研究所助教授を経て、同59年同教授に就任、現在に至っている。



柏原教授は、代数解析学の開拓者として、この分野の研究を主導してきた。関数を、それが満たす微分方程式を通じて研究しようというのが代数解析学である。関数の特徴はその特異性に集中してあらわれる。微分方程式が与えられると、その解の特異性をはかる位相的データとしてモノドロミー群の概念が定まる。ヒルベルトは、逆に、与えられたモノドロミー群をもつ微分方程式が必ず存在するかという

問題を提出した。これは、ヒルベルトが20世紀初頭の有名な講演の中で20世紀の目標として提出した23の問題の中の第21問題で、1次元では成り立つことが1957年に示されていた。柏原教授は、長年懸案であった高次元の場合に、確定特異点型D加群と構成的層の対対応という形で、この問題に究極的な解答を与えた。これにより、解析(微分方程式)、幾何(モノドロミー、構成的層)という異なる数学的対象を結び付けることが可能となり、新しい展開の土台を与えた。実際、同教授は、これを用いてカジユダン・ルスティヒ予想を解決している。

今回の受賞が、同教授の研究の更なる発展の契機となるとともに、同教授に続く後進の輩出につながることを期待する。

(数理解析研究所)

話題

創立記念行事音楽会を開催

6月18日の本学創立記念日を祝し、第52回京都大学創立記念行事音楽会「プリムローズ・マジック～2台のピアノ～」が6月17日に京都コンサートホールで開催された。

今回はプリムローズ・マジック(石岡久乃氏、安宅薫氏)のお二人によるピアノ・デュオの演奏があり、誰もが耳にしたことのあるクラシックの名曲から最近テレビドラマで話題になった曲まで2台のピアノによる重奏や連弾が披露され、軽快なトークを織り交ぜながらの息のあったステージに約800名の聴衆が引き込まれた。

本音楽会は日頃より本学の活動にご協力をいただいている地域住民の皆様もご招待しているが、早くも来年の音楽会についての問い合わせがあるなど今

日も大変な好評をいただくことができた。



プリムローズ・マジックによるピアノ・デュオの演奏

(学生部)

教育学研究科附属臨床教育実践研究センター公開講座 『象徴的生活—いのちの尊厳性—』を開催

臨床教育実践研究センターでは、毎年、深刻化する教育問題への取り組みの一環として、現代人の心の理解に主眼をおいた公開講座を開催している。

今年度は、目幸黙僊 同センター客員教授を講師として、6月15日(日)の午後1時から、百周年時計台記念館国際交流ホールIで行い、心理臨床家や教育関係者、学生など約90名が参加した。

講演では、全体存在としての人間の在り方をテーマとして、ユング心理学や宗教学などを踏まえつつ、自我と自己、エゴとセルフの関係などが重層的に語られた。参加者からは、「自分の体験に照らし合わせて、考えが深まった」「全体という視点、バランスという視点をもつことの重要性を感じた」などの意見が寄せられ、人間がそのものとして生きることの困難さとその深みを体験的に味わう貴重な機会となった。

本講座は、例年参加者から好評を得ており、来年度以降も複雑な心の問題を理解していく上で重要な視点を考える場となるよう開催していくことを考えている。



(大学院教育学研究科)

国際交流会館宇治分館・おうばく分館「入居者懇親会」の開催

平成20年6月5日(木)午後6時30分から約2時間、国際交流会館おうばく分館交流ホールで、宇治分館入居者との合同懇親会が開催された。

この懇親会は両会館主事の主催によるもので、入居中の外国人研究者や留学生に加え、日頃会館で日本語教室等文化交流のボランティア活動をしている人たちも参加し、会場は総勢百人を越える参加者で懇親が深まった。

懇親会では、縄田栄治国際交流会館小委員会委員長の挨拶、留学生によるヴァイオリンの演奏、横山俊夫副学長による乾杯の発声の後は談笑の輪が広がり、日頃同じ宿舎・地域に住みながら、言語や習慣

の違いにより会話の少なかった会館入居者の相互理解を深める、絶好の交流の機会となった。



(国際交流サービスオフィス)

訃報

はやし 功三^{こうぞう}名誉教授、さかい 幸三^{こうぞう}名誉教授、よねざわ 貞次郎^{ていじろう}名誉教授が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

以下に各名誉教授の略歴、業績等を紹介します。

林 功三 名誉教授

林 功三先生は、平成19年12月16日逝去された。享年79。

先生は、昭和29年3月本学文学部文学科(独語独学専攻)を卒業後、三重県立大学助手を経て、同31年5月本学文学部助手に就任され、同34年5月本学吉田分校講師に昇任、同36年7月吉田分校助教授に昇任、同38年4月助教授(教養部)に配置換、同56年教授に昇任された。その後、平成元年3月退官され、同年4月本学名誉教授の称号を授与された。

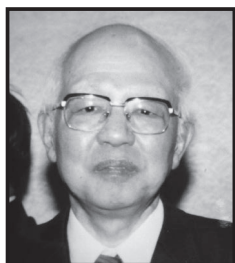
先生の本学における教官歴は33年の長きにわたり、その間、教養部におけるドイツ語の教育及び文学部学生の指導に熱心に携わられた。ドイツ連邦共和国出張時にはベルリン自由大学の講師も務めて「日本語・日本文学」の指導にあたられ、本学及びベルリン自由大学の友好・交流に大いに寄与された。

各種委員を務められ、教養部の管理・運営にも大いに貢献された。

研究面においては、とくに20世紀前半というドイツ現代文学の勃興期に焦点を据え、広い社会の歴史の変革との関わりのなかで文学を捉え、トーマス・マン、ヘルマン・ブロッホ、表現主義運動という狭義の文学研究のみならず、ドイツ共産党の社会ファシズム論、プロレタリア革命文学論など、ドイツの政治・文化政策にも踏み込んで、ドイツ文化・社会史研究を着々と進められた。退官後も多数の著書・訳書を通じてドイツの戦争・戦後責任の行方を紹介され、また、社会活動や市民運動にも積極的に関与され、大学内外から篤い信頼を受けておられた。ご冥福をお祈りする。

(大学院人間・環境学研究科)

酒井 幸三 名誉教授



酒井幸三先生は、1月3日逝去された。享年80。

先生は、昭和25年3月京都大学文学部文学科を卒業後、京都府公立学校教員、浪速大学(現大阪府立大学)講師を経て、同31年11月京都大学教養部助教授に就任、同47年同教授に昇任された。平成3年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間34年の長きにわたり教養部で英語を、大学院文学研究科で英文学を講じられ、後進の指導に力を揮われた。

先生は、18世紀の英国詩人を主たる研究対象とされ、グレイ、ジョンソン博士、コリンズ、ポウプら

の作品を技法と主題の両面から、ヨーロッパの詩的伝統の中において捉えんとした精緻な論文を多数発表された。その中のポウプの『毛髪強奪』を論じた一篇は昭和46年京都大学英文学会よりアルビオン賞を授与された。

また18世紀詩人たちが伝統の重荷として背負った先達としてのミルトンとシェイクスピア研究も光彩を放っている。先生の深い学識は『ポウプ前期の詩と詩論研究』(昭和54年)、『ポウプと18世紀の抒情詩』(同62年)、『ポウプ・愛の書簡詩－『エロイーザからアベラードへ』注解』(平成4年)といった著書に見ることができる。先生の篤実な学風と謙虚なお人柄は、その和服姿とともに長く記憶されるであろう。

(大学院人間・環境学研究科)

米澤 貞次郎 名誉教授



米澤 貞次郎先生は、5月20日逝去された。享年84歳。

先生は、昭和22年京都帝国大学工学部燃料化学科を卒業、同27年同大学院同課程修了後、同大学工学部講師、助教授を経て同40年教授に昇

任、燃料化学科高温化学講座を担当された。同54年より2年間分子科学研究所教授を併任、同56年石油化学科触媒化学講座、同58年新設の分子工学専攻分子設計学講座に担任換、同62年停年退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。本学退官後、同63年より平成6年3月まで近畿大学特任教授、同13年より平成医療学園校長及び理事を務められた。

先生は、当時 π 電子系の理論化学が活発であった中、 σ 電子系の分子軌道理論を開発され、広範な化合物の電子状態解析に成功された。さらに、分子軌道理論の基礎に立ち、磁気共鳴法の実験結果の理論解析とその物理化学的意味の解明に成功された。これらの業績は国内外で高く評価され、昭和53年日本化学会賞が授与された。先生は理論化学、物理化学分野において多くの優れた人材を輩出されると共

に、日本化学会副会長及び同理事、燃料協会関西支部長、岡崎国立共同研究機構分子科学研究所評議員、財団法人基礎化学研究所学術顧問及び同評議員などの要職を歴任された。これら一連の教育研究活動、学会活動により、平成12年11月3日勲三等旭日中綬賞に叙せられた。

(大学院工学研究科)

公開講座

情報学研究科公開講座「こんなに楽しい数理の世界」

日 時：2008年8月9日(土)13:00～16:30(12:00 開場)

場 所：時計台百周年記念ホール

I. タイトル：「娯楽数学の世界へようこそ－パズル・ゲームマニアよ大学へ集え」

講演者：伊藤大雄(京都大学大学院情報学研究科准教授)

内容の説明：

パズル・ゲームと数学の違いは紙一重です。数学の研究はパズルを解くのとほとんど同じ感覚ですし、一方、多くのパズル・ゲームが数学の研究対象とされています。子供のころからのパズル・ゲームマニアである講演者が、若き同志達に娯楽数学の世界をお見せします。

II. タイトル：「君もエッシャーになれる－芸術にも役立つ数理工学」

講演者：杉原厚吉(東京大学大学院情報理工学系研究科教授)

内容の説明：

オランダの版画家エッシャーは、不可能図形やタイル図形を素材に用いて、すばらしい芸術をたくさん残していますが、その構造を数理工学の視点から調べると、同じような絵を誰でも描くことのできる技術が浮かび上がってきます。

III. タイトル：「解き明かそう生命のパズル」

講演者：阿久津達也(京都大学化学研究所教授)

内容の説明：

21世紀初頭に私たちは約30億文字からなる人間の設計図をほぼ手に入れました。設計図の理解は壮大なパズルを解くことに例えることができますが、まだ、ほとんど解かれていません。壮大なパズルを解くためには、小さな数理的パズルを解くことも有用です。ここでは、その小さなパズルのいくつかを紹介します。

対象：中学上級・高校生以上

参加費：無料

参加申し込み：不要(入場先着順500名)

オーガナイザ：永持仁(京都大学情報学研究科)

問合せ：高村尚美 TEL：075-753-4920

E-mail：takamura@amp.i.kyoto-u.ac.jp

霊長類研究所東京公開講座「霊長類学の最前線」

1. 日 時：9月13日(土)13:00-17:00
2. 場 所：日本科学未来館7階 みらいCANホール 東京都江東区青海2-41
3. プログラム
 - 司 会：三上 章允
 - 13:00-13:15 所長挨拶
 - 13:15-14:00 講演1-松沢哲郎「チンパンジーの親子と教育」
 - 14:00-14:45 講演2-大石高生「指のうごきを取り戻す脳」
 - 14:45-15:00 休憩
 - 15:00-15:45 講演3-江木直子「霊長類の祖先が生まれた世界
～化石動物相が教えてくれること～」
 - 15:45-16:30 講演4-渡邊邦夫「スラウェシマカクの社会とその種分化」
 - 16:30-17:00 質疑応答
4. 参 加 費：無料
5. 定 員：300名(希望者多数の場合は申込先着順)
6. 申 込 締 切：平成20年8月29日(金)必着
☆いただいた個人情報は当公開講座以外では使用いたしません。
7. 問 合 せ 先：〒484-8506 愛知県犬山市官林
京都大学霊長類研究所「東京公開講座」係
TEL：0568-63-0512 FAX：0568-63-0085
E-mail：tokyo2008@pri.kyoto-u.ac.jp
申込方法等、詳細は霊長類研究所ホームページをご覧ください。
<http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/index-j.html>

お知らせ

連続公開シンポジウム「倫理への問いと大学の使命」(第3回) ～「研究の自由」における倫理～

1. 日 時：9月3日(水)13:00-17:00
2. 場 所：時計台記念館百周年記念ホール
3. 演題・講師：

基 調 講 演：「科学者の倫理と行動規範」 パネル講演：「生命倫理への挑戦は研究の自由を拡大するか？」 「工学研究者倫理の領界」 「研究はだれのものか」 パネル討論：入倉 孝次郎, 柳田 充弘, 井手 亜里, 横山 美夏 コーディネーター：公共政策大学院教授 位田 隆一 入 場 料 等：無料(当日直接ご参加いただいても構いませんが、出来る限り事前にお申込ください。) 問 合 せ 先：京都大学学生部学生課総務企画グループ TEL：075-753-2506 FAX：075-753-2567 E-mail：rinri@www.adm.kyoto-u.ac.jp	京都大学名誉教授 入倉 孝次郎 生命科学研究科 特任教授 柳田 充弘 工学研究科 教授 井手 亜里 法学研究科 教授 横山 美夏
---	---

隔地施設 紹介



本館落成時



開所当時の風速計



音波探査機

防災研究所附属流域災害研究センター潮岬風力実験所

(<http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/~rcfcd/frs/index.html>)

潮岬は本州最南端に位置し、過去には大きな被害を発生させた数多くの台風が上陸、接近してきました。大きな被害を発生させた台風5915号(1959年台風15号：伊勢湾台風)が上陸したときには、京都大学防災研究所の研究者によって潮岬灯台において強風観測が実施されました。潮岬はこのような強風の発生頻度が高く、強風の観測の適地として恒常的な強風の観測実験施設が計画されました。当初は、串本町から用地の貸与を受けて、観測室、給水設備、実験家屋が潮岬の台地の上に建設されました。昭和41年には専任職員が配置され、潮岬風力実験所として防災研究所の附属施設に認められました。昭和45年には測風塔を供えた研究室本館や2000m²の広さの野外実験場が完成し、実際に強風を観測して構造の解明および強風中の構造物に対する作用を測定することを目的とした観測施設として本格的な研究環境が整いました。



研究室本館

平成18年には電話回線を利用してKUINSへの接続を実現し、現在は光ファイバーが敷設されて高速通信が可能となりました。この回線を利用して、ライブカメラによって現地のように風向風速などの気象資料をリアルタイムで宇治地区の研究室に送ることができるようになりました。

以下にこれまでの研究成果の主なものを上げます。



超音波風速計

(1) 自然風の風速の変動の高周波数の乱流変動成分観測のために開発され実用化された超音波風速温度計の野外における実験が、世界で初めて潮岬風力実験所で実施されました。また、音響探査装置(ソーダー)の開発には、初期の段階から関わり、その実用化に向けての野外実験を行ってきました。この乱流計測機器を用いて、接地気層内の風速場の時空間的な構造、乱流輸送過程などの研究が進められてきました。これらの計測機器による、これまでの観測された最大瞬間風速は、台風9019号(1990年台風19号)が紀伊半島に上陸した平成2年9月19日の59.0ms⁻¹です。このような台風時の強風だけでなく、潮岬では竜巻やダウンバーストなどのシビアローカルストームのときには30-40ms⁻¹、冬季の季節風や春一番などの低気圧の通過のときにも20ms⁻¹を越えるような強風がしばしば吹きます。

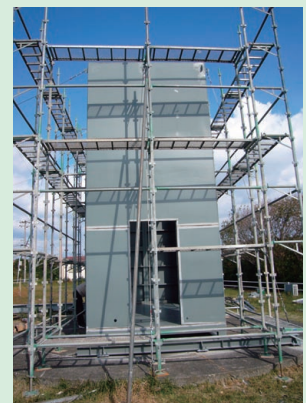


(2) 建築物の複雑化、大型化にともない、構造物の耐風設計に際して、風加重を定量的に的確に評価することが要求されてきました。このため、研究室本館の窓ガラスや実験住宅の屋根を利用した、実物の建築物に対する風圧の観測が実施され、さらに、簡単化した模型を使つての実験も行われました。また、都市地域に高層建築物が数多く建てられ、巨大な橋梁が設計されるようになると、その構造物の挙動は風環境に大きな影響を与えます。この影響の定量的な評価は、実際に観測をすることがもっとも確実な方法です。東京ドームや高層構造物などの大規模構造物の建設の際にも、観測資料を提供し大きな貢献をしてきました。

(3) 強風災害の軽減ためには、台風や竜巻に伴う強風による被害の実態調査が不可欠です。紀伊半島に上陸した台風9019号の強風災害の調査を始めとして、数多くの被害調査を実施しました。また、潮岬では竜巻の発生も比較的多く、過去に発生した4個の竜巻の被害調査を実施して、被害からの風速推定を行いました。これらの実績は最近の海外での気象災害調査に生かされています。

職員構成

教員(兼任) 1人、
非常勤職員 1人



自然風中の耐風模型実験
(ダフルスキン構造)



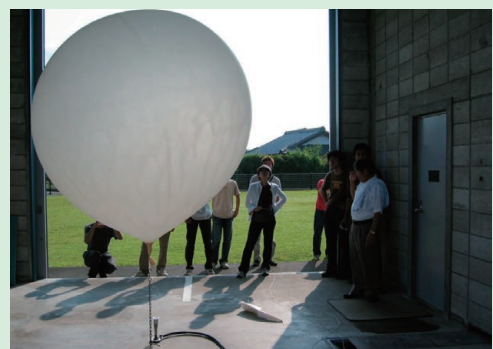
気象海像実習

教育面では、防災研究所の白浜

海象観測所と連携して、大学院生向けの「気象海象観測実習」、全学共通科目のポケット・ゼミの「空を観る、海を観る、川を観る」を実施しています。実験所での乱流観測実習のほか、近くの潮岬測候所での地上観測や高層観測を見学体験できるいい機会です。この「気象海象観測実習」は今年で10年目を迎えますが、年々参加する大学院生の数が増えて20名以上の参加があります。これらの実習は合宿形式で行われ、教

職員と学生の親睦をはかるよい機会になっています。

この施設は、風に関する総合研究施設として我が国唯一のものであり、強風災害の軽減のための基礎資料を提供するのみならず、1978年にすでに潮岬における風力エネルギー推定を行うなど先駆的な研究を行い、今後も地球環境面での貢献も期待されています。



潮岬測候所での高層観測実習

連絡先

〒649-3502

和歌山県東牟婁郡串本町潮岬3349-134

TEL 0735-62-0693

FAX 0735-62-0693

アクセス

- ・京都駅からJR紀勢線串本下車、熊野交通バス上野(うわの)下車、徒歩10分。
- ・近畿自動車道田辺インターで降りたのち、国道42号線から潮岬周遊道路を經由。